

良好な社会資本を次世代へ引き継ぐために

西宮市 公共施設マネジメント読本 総論編



公共施設マネジメントとは

施設のあり方や整備の方向性を一体的に考え、公共サービスの機能や質の維持・向上を図りながら財政面での負担を軽減・平準化していく方策を総合的に推進する取組みのこと

1

このままで
大丈夫？

-公共施設の将来見通し-

2

これから
どうしていくの？

-公共施設のこれからの方向性-

3

これからの
あり方を考えよう！

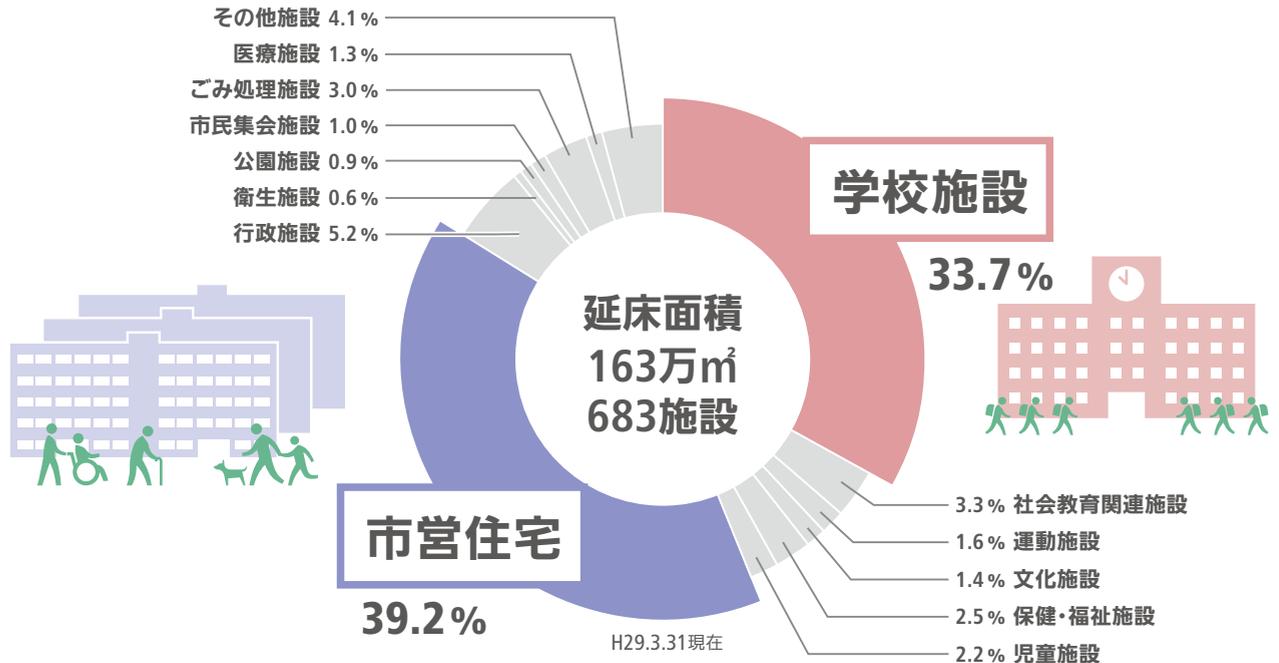
-公共施設の有効活用等-

公共施設ってなに？

くらしを支え、豊かにする市民の貴重な財産（社会資本）です

ハコモノ系の公共施設

学校や公民館、体育館、市営住宅など市民が利用（使用）する施設のほか、市役所の庁舎など自治体が直接使用する施設で、「ハコモノ」と呼ばれる公共施設です。ハコモノ系の公共施設は、延床面積（㎡）で保有量を表します。



ハコモノ系の公共施設は現在、全市で683施設あり、床面積の合計は約163万㎡です。

種類別では市営住宅が最も多く、次に学校施設の占める割合が高くなっています。

他都市では学校施設が最も多い傾向にありますが、本市では阪神・淡路大震災直後に復興住宅などを大量に供給したため市営住宅の割合が高くなっています。

インフラ系の公共施設

道路や橋りょう、上下水道の管路など経済活動や社会生活を支える基盤施設で、「インフラ」と呼ばれる公共施設です。

インフラ系の公共施設は、総延長(km)や箇所数などで保有量を表します。

道路施設
一般道路957km 自転車歩行者道12km
道路付属物

水路施設
指定水路255km 溜池5箇所
調整池29箇所等

橋りょう施設
橋りょう647橋

上水道施設
管路1,191km 浄水場3箇所
配水所 配水池等

公園施設
都市公園495箇所
遊具・健康器具・植栽

工業用水道施設
管路63km 浄水場1箇所
取水場等

下水道施設
管路1,185km 浄化センター3箇所
ポンプ場15箇所等

このままで大丈夫？

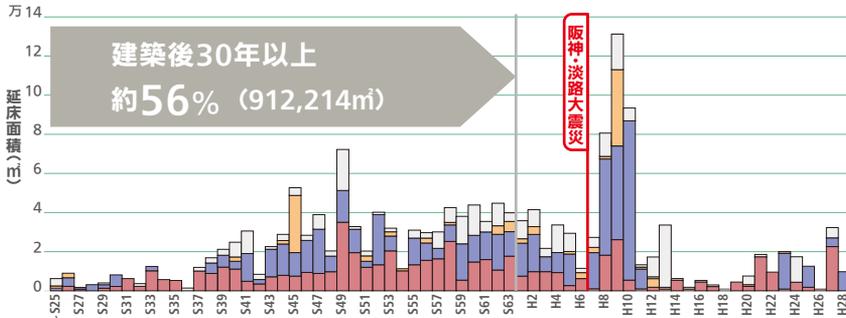
－ 公共施設の将来見通し －

人口減少や高齢化が進み、今後、市の税収の伸びを見込むことは困難です。一方で、高度経済成長期や震災直後につくられた公共施設（ハコモノ）は老朽化が進み、次々と建替えや大規模改修の時期を迎えます。このままでは維持管理や保全・整備コストの増加が避けられず、安全面だけでなく公共サービスの質の低下を招くおそれがあります。

見通し
1

公共施設の老朽化が進みます

公共施設の大量一斉更新等



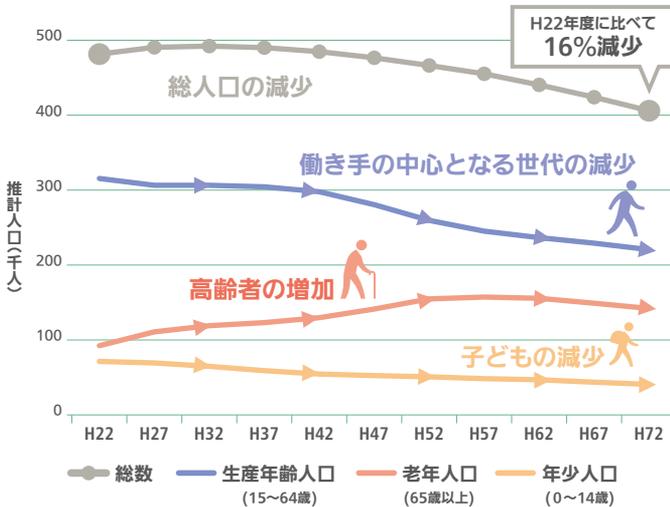
高度経済成長期に集中的に整備し、建築後30年以上経過した施設が全体の約56%を占めています。また震災直後に整備した施設も多く、これらの施設が今後一斉に建替えや大規模修繕の時期を迎えます。

■ 学校施設 ■ 市営住宅 ■ 行政施設・ごみ処理施設
■ その他施設（社会教育、保健・福祉、児童、運動、文化、医療、市民集会施設等）

見通し
2

人口が減少し、少子高齢化が進みます

微増傾向であった本市の人口も今後は減少が進みます。平成22年度に約48.3万人だった人口は、50年後には約40.6万人とすることが推計されています。また少子高齢化に伴い、生産年齢人口も減少していきます。

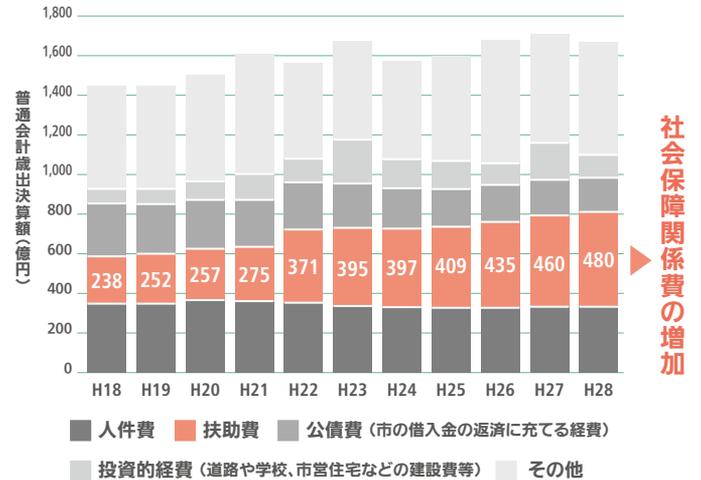


見通し
3

市税収入は増えず、社会保障関係費は増大します

働き手の中心となる生産年齢人口が減少していく中、今後、市税の増収は期待出来ません。一方では、高齢化の進展などに伴い扶助費※が年々増加しています。今後も高齢化が進み、扶助費など社会保障関係費は一層増大していくものと見込まれます。

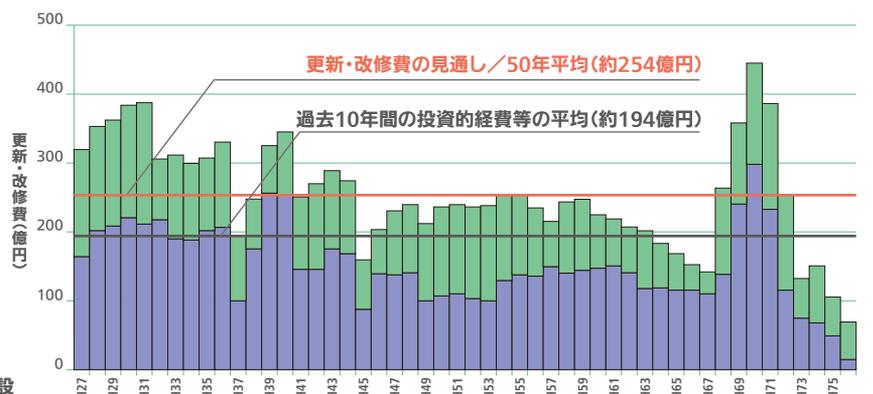
※扶助費とは、高齢者・児童・障害者・生活困窮者などの支援に要する経費



見通し
4

施設の更新・改修費用も増大します

現在保有している施設を同じ規模で建替えあるいは改修していこうとすると、今後50年間で約1兆2,700億円、単純平均では年間約254億円の費用が見込まれます。これは、過去10年間（平成18年度～27年度）で投資的経費等に要した年間平均額約194億円の1.3倍にあたります。



■ ハコモノ系公共施設 ■ インフラ系公共施設

これからどうしていくの？

－ 公共施設のこれからの方向性 －

現状のまま公共施設を保有し続けると、将来的に多額の財政負担（市民負担）が生じることとなり、西宮市だけでなく全国の自治体共通の課題となっています。そこで、施設の有効活用をはじめ維持管理や施設の性能・機能の最適化など、様々な観点からの公共施設マネジメントの取組みが求められています。

公共施設マネジメントの3つの視点

1 財務

維持・更新等にかかる費用の抑制、無駄の排除

課題

今後、老朽化した施設の更新や維持管理には多額の費用がかかりますが、使える財源に余裕はありません。

マネジメントの基本的な考え方

施設の更新・改修を行う際には必要性を十分検討し、経費を抑制することや戦略的な保全計画を立て、単年度に発生する費用の平準化を図ることが重要です。

2 品質

安全・安心・快適性、環境保全性の確保

課題

これまでのように対症療法的な保全を繰り返していると「予期せぬ不具合の発生」「市民サービスの質の低下」「更新サイクルの短縮」を招き、結果として維持・更新等にかかる費用を増大させてしまいます。

マネジメントの基本的な考え方

計画的な保全により施設を安全・安心で快適な状態に保ちつつ、機能的・社会的な劣化の改善や環境にも配慮して施設の長寿命化を図っていく必要があります。

3 供給

施設の供給のあり方、総量の見直し

課題

今後の財政状況を考えると、現在の施設を同じ規模で更新していくことは困難です。

マネジメントの基本的な考え方

市民に対するサービスの質をできるだけ落とさずに経費を削減できるよう、施設総量の見直しを図る必要があります。

施設総量(延床面積)の縮減【目標値】

2032年(H44年度)までに**10%以上**縮減
2062年(H74年度)までに**20%以上**縮減

これからの方向性

ハコモノ系公共施設

上手に使う 維持管理の最適化	長く大事に使う 施設性能の最適化	とことん使う 施設機能の最適化	身の丈に合わせる 施設総量の最適化
維持管理経費の圧縮を図るとともに施設の状態を良好に保ち、利用者の快適性を高めます。	計画的な保全により劣化の進行を遅らせ、長期にわたり安全に使用できるようにします。	有効活用されていない施設は用途転用や複合化など、施設の再配置を進めます。	保有施設の適正量を見極め、余剰となる施設の再編・処分等を行うことで総量の縮減を図ります。

インフラ系公共施設

安全性を優先した計画的な維持管理

インフラ系公共施設は総量の縮減や統廃合が困難なため、長寿命化や維持管理経費の削減といったライフサイクルコスト削減のための方策を講じながら、安全性を優先した計画的な維持管理を実施します。

これからのあり方を考えよう!

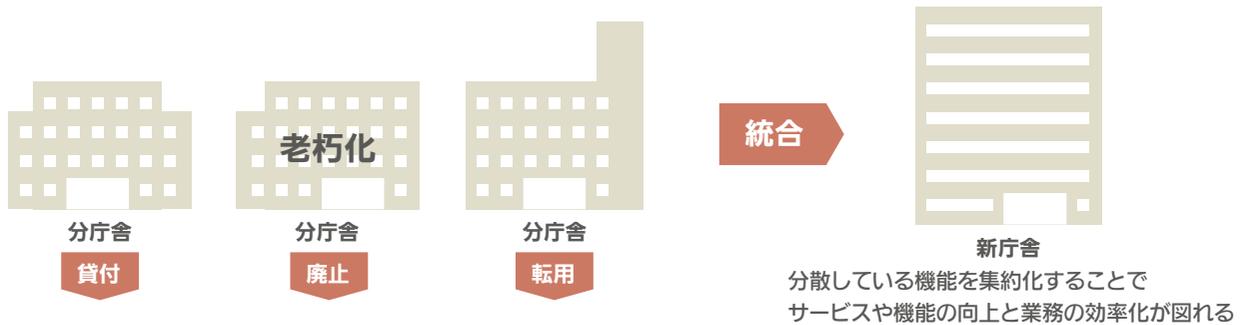
－ 公共施設の有効活用等 －

公共施設マネジメントの取組みは単に総量を縮減するのではなく、将来を見据え、市民ニーズの変化に合わせて効率的かつ効果的に施設を運営(経営)していくことです。限られた財源の中では規模縮小のほかにも施設の長寿命化や集約化、複合化など様々な有効活用策をうまく組み合わせながら取組みを進めていく必要があります。

施設の有効活用 》 施設の有効活用には、「集約化」・「複合化」・「転用」といった方法があります。

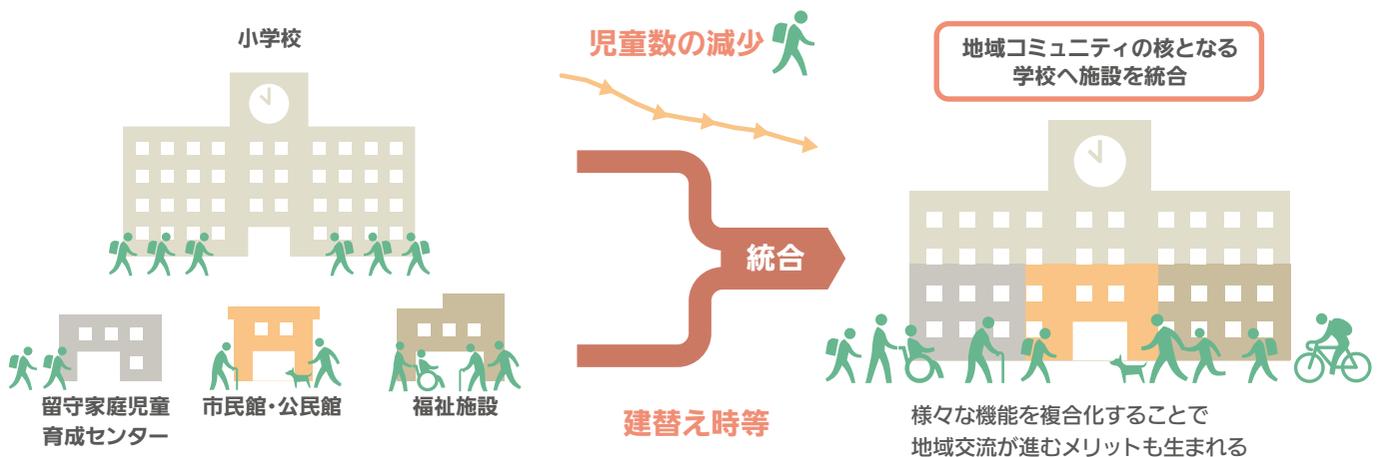
集約化

既存の同種の施設を統合し、一体の施設として整備する方法



複合化

既存の異なる種類の施設を統合し、複合施設を整備する方法



転用

既存の施設を改修し、他の施設として利用する、または貸付ける方法



「集約化」・「複合化」・「転用」の他にも色々な工夫が必要です

長寿命化

きちんと点検し、補修・改修を行い、出来るだけ施設を長持ちさせる

点検
補修
改修

長寿命化

更新費用等の平準化

建替えや改修時期を調整し、年度間の費用負担を調整する

負担
調整

平準化

公共施設 Management

